

市長あいさつ

皆さんおはようございます。北九州市長の武内和久でございます。本日は本当に暑い中、多くの方にお集まりいただきましてありがとうございます。きょう午前中に、長行の方に行って紫川の清掃と川祭に少し参加させていただきましたが、本当にそこでも多くのお子さんたちが来られていました。また今も、多くのお子さんたちが手足をいっぱい広げている姿を見て、こういった皆さんが将来目いっぱい力を発揮できるそういう未来を皆さんと一緒に作っていききたいなと改めて思います。

ミライ・トーク in 小倉南区ということで、本当に今日はありがとうございます。南区は、非常に大きいのと色々な地域特性があるため、2回に分けて開催するというので、29日にもありまして、今日はその1回目となります。

南区は7区でも最も広く、面積の35%を占めております。人口21万人と北九州市全体の2割強を占めて、平均年齢は1番若い区という特徴を持っています。平尾台もありますし、紫川もありますし、合馬もありますし、春菊もありますし、小倉牛もありますし色々なものがたくさんあります。市立大学や高専もあり、様々な特徴がある南区で多くの人がつながって、これからどういう南区を作っていくのか、皆さんで議論できる場にしていきたいと思っております。

ミライ・トークは各区区役所が主体となっていろんな工夫をして作るスタイルとなっておりますが、南区は“いいねボード”を準備してくださって、そのような工夫もしてくれました。ミライ・トークは区役所の若い職員たちが中心となってどんな風にすれば皆さんと語ることができるのか、いろんな工夫をした企画になっていますので、限られた時間ではございますが、皆さんにもいろいろなお話を聞いていただき、考えていただき、気づいていただいて、そして可能な限り発言もしていただき、そういう場にできればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

パネルディスカッション

進行（重岡）：

はじめに、尊田区長からお願いします。

尊田区長：

おはようございます。小倉南区長の尊田でございます。プレゼンテーションはいかがだったでしょうか。一生懸命に若手職員が作りました。いいねボードをありがとうございます。とてもうれしく思います。今日は南区の未来を考える会ということで、トップバッターで区長の私からお話をさせていただきます。

これは先ほど出たスライドで、南区の未来について、区に関わりのある方、遠くから南区に関心を寄せていただける方、様々なご意見をいただいた結果を職員がまとめたものでございます。300件以上のご意見をいただいております。

大きく3つございまして、いいのがありましたら、いいねボードを挙げていただいても結構ですが、まず1つが、「豊かな自然を守り、若い世代が暮らしやすい、子育てしやすいまち」、もうひとつが、「伝統と文化を大切に、子どもから高齢者までが交流し、地域を盛り上げるまち」、最後が、「陸海空の交通、北九州空港も拡張されます、その利便性と豊富な食材を活かした「道の駅」の建設」、といった意見をいただいております。

南区の特徴や未来への可能性を随所に散りばめられたご提案だと私はまず受け止めたんですが、

その一方で、これは実は課題の中の課題の裏返しだとも思うわけです。まずは豊かな自然環境、先ほど平尾台も出てまいりましたし、道原、合馬の里地、里山、それから曾根干潟と豊かな自然が南区を代表するわけですが、先ほどあったように 8 割が山に囲われた区ではありますが、市民の方、皆さんが思っている豊かな自然というのは、人の手が入った里地、里山でございます。この地域のマンパワーは高齢化で先細っているという課題があります。ですので、これを守っていくというのは、並大抵のことではないと私は最近強く思っています。

また、伝統文化もこれは、里地、里山。五穀豊穰を願う、神楽や神幸祭が根強く残っていますが、そこも同じ問題をはらんでいます。さらに生物多様性の問題なども入っていますし、人の話で言いますと、子どもから高齢者、若い世代が暮らしやすい、子育てしやすいまち、これは実はまだまだ若い世代が暮らしやすいような魅力が欠けているのではないか、子育てしやすいまちとして十分なのか、という問題が返ってきます。子どもから高齢者という話で申し上げますと、いま、自治会の皆さんや民生委員の方、児童委員の方、地域の方々に本当に頑張ってもらっていますが、にもかかわらず若い世代がなかなか入っていただけない、要は交流が途絶えているのではないか、というような目で見えていくわけでございます。地域を盛り上げるイベント関係、本当に皆さんお年を召された方々が真剣に頑張って地域を盛り上げていただいていると。先ほどの市長のあいさつにもありました、長行校区は若い世代も含めて盛大に盛り上がっていたんですが、どこもそのように盛り上がっていないという実情がございます。

一方で、陸海空の交通の利便性ということについては、やはり可能性を最大限に活かすべきではないかと問われているような気になってきますし、豊富な食材を見ていただきましたが、農林業が南区はやはり広くて若松区に次いで就農されている方の割合が高いです。大葉春菊や水菜といった軟弱野菜は市内でも南区のみの生産と聞いています。そのような特産品の面もありますが、農業のいわゆる後継者問題は問われていると受け止めたところでございます。

今日はいろいろとパネリストの方や会場からもご意見をいただくとお思いますので、実り多いご意見、幅広いご意見をいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

進行（重岡）：

ありがとうございました。課題と可能性ということで探っていけたらいいなと思います。

続いて、パネリストの皆さんからまずは簡単な自己紹介と皆さんが思い描く小倉南区の将来像について、〇〇なまち、のような感じでご紹介いただければと思います。まずは、壹岐尾さんからお願いしてよろしいでしょうか。

壹岐尾氏：

皆さんおはようございます。私は、株式会社コクーンの前代表取締役をさせていただきます、壹岐尾恵美と申します。インテリアデザインと設計の会社を 2010 年に立ち上げまして、いま 13 年目になります。平尾台の出身でして、先ほどからお話にあるような平尾台の山を駆け巡って育ったわけです。建設の設計とインテリアデザインという会社をしている関係もありますが、一時期福岡市で 13 年ほど勤めておりまして、その時に平尾台に友人や会社関係の人、東京の方、外国の方をお連れしたときに、皆さん平尾台を初めて知ったとおっしゃったわけです。

私にとっては当たり前の自然をみんなは知らないということ、福岡で仕事をしている時に気付きました。いつかこの平尾台について発信出来たらいいなと思って、自発的に Hug 平尾台プロジェクトを立ち上げたんです。誰に頼まれたわけではなく勝手に魅力を発信したいと思い

プロジェクトを立ち上げました。その中で、平尾台の上であまり知られていないと思うのですが、民泊とカフェを営んでおります。建築の設計とインテリアのデザインをしている仕事柄、民泊も自分で設計デザインして空き家を活用してさせていただいています。

私の中の課題としては、やはり南区だけではないと思いますが、九州全体、全国で空き家問題がすごくあると思っています。その空き家を活用して何か自分の仕事を活かして地域の皆さんと一緒にやりたい。なおかつ小倉南区の平尾台、全国にまだまだ知られていない平尾台を魅力発信したいという想いで、周囲の人たちの協力を得ながら小さく活動させていただいています。

私の思う小倉南区の将来像は、持続可能かつおしゃれ、そしてセンスのある、まち、山、自然を継続したいというのが私の想いです。以上です。

進行（重岡）：

いいねが2つ上がっています。ありがとうございます。高校生もあげてくれています。皆さんのいいねがあがるとこちらも熱が帯びてまいりますので、ぜひご協力、ご参加ください。続いて、山家さんお願いできますでしょうか。

山家氏：

私は徳力団地で内科の診療所をやっておりますが、名前が徳力団地診療所なので、団地に住んでいる人しか診られないのですかと言われるのですが、そんなことはなく、団地内外の外来の患者さんも診ています。他に在宅医療にも従事しています。小倉南区は本当に広くて、平尾台のてっぺんまで往診に行ったことも何回もあります。また市外ですが採銅所まで行きました。いろいろな広い所にいろいろな方がおられるわけですが、中にはやはりご高齢になられて身体が不自由になった方、また神経難病であります、脳性麻痺の方やガンの末期の方、そういった方々の中に最後まで私たちは家で過ごしたいんだ、というご家族、ご本人の想いを持たれている方をたくさん診させていただいています。

そういった中で、無床診療所、ベッドの無い診療所だけではどうもやっていないということがありましたので、養護老人ホーム、要介護3以上の方が主で、自分のことが自分でできなくなった方を中心に現在、団地の中で39名、それと菅生の滝のそばですが春吉の方に50人ほど、合計89名の要介護の方をお世話させていただいています。この中には診療所、一番上には地域交流ホールを作って、講演会や映画会、あるいは百瀬ミュージックボランティアの方々やいろいろなボランティアの方々にレクリエーション活動してもらったり。また団地の中には幼稚園などもありますから、幼稚園の方、保育園の方にも来ていただいて交流しているんですが、残念ながらコロナの関係でいまそれが途絶えているということで、何とかまたそれを復活させたいというのが今の想いです。

実は我が国はものすごい超高齢化社会で、皆さんよくご存じだと思いますが、このスライドを見ていただいて、アメリカと日本では8歳ほどの開きがあって、コロナを境にまた開いているということで、課題はいろいろとあったものの、新型コロナに対する対策は比較的うまくいった国だと思うんですが、超高齢化社会はますます続いていくわけです。

我が国は、病院で亡くなることが当たり前でした。1970年代の半ばに、お家で亡くなる方を病院で亡くなる方が上回りました。これは、高度医療、救急医廊の発展によって、何とか病院までたどり着けば元気に帰ってこられる、ということがあったわけですが、若い方はそうなのですが、残念ながらお年をとられますと回復力も落ちてまいりますし、いろいろな不自由を感じら

れて家ではなかなか生活できにくい方が出てくる。では病院でもないと言ったらどこに行くのかというと、それが今の課題だということです。

その流れの中で在宅医療でもいろんなことが結構できています。例えば人口呼吸器をつけてたり、あるいは腹膜透析をする患者さんでも、家で暮らせるような形になっています。一つだけ宣伝しておきますと、北九州市+在宅医療、で検索してくださると、このページが出てきます。また、在宅医療と介護を結ぶ各区の医師会の活動なども紹介していますので、ぜひご覧になってください。

進行（重岡）：

山家先生が思う、医療や介護を通してのまちづくり、〇〇なまち、を表現するとどんな形になるでしょうか。

山家氏：

はい、そこでこの真ん中の住まいのところですよ。医療だとか介護だとかそれぞれやはり、現場で頑張っておられる方もたくさんおられますし、ちゃんと動いているところは動いていますが、あいにくと住む場所がない。そこまでいけば施設に預ければいいと思われるかと思いますが、やはりコストの面とか数に限りがありますので、住まいをどう確保したらいいだろうかという点について、これは専門外ですが、皆さん方で考えていただければというのが今日来た一つの目的でございます。

進行（重岡）：

自分の居るまちに住むということですね。どうすれば住み続けられるか、というところでしょうか。また後程お話しいただければと思います。もうひとつ、小野瑠夏さんが考える南区の将来像についてお願いします。

小野氏：

こんにちは、北九州市立大学社会システム研究科 2 年の小野瑠夏と申します。出身は大分県の中津市ですが、大学の学部は北九大の地域創生学部で社会福祉を 4 年間学びました。いまは大学院生ですが、そこでは人類学を専攻しています。

私の主な活動ですが、知っている方は教えていただきたいのですが、毎年 4 月に城野駅から小倉南図書館の辺りの範囲で、WAKAZONO タウンパレードというイベントを開催しています。もし、知っている方がいましたら教えていただいてもいいでしょうか。

進行（重岡）：

いいねボードを挙げてくださっている方がいらっやいます。ありがとうございます。10 人ちょっといらっやいますね。

小野氏：

ありがとうございます。WAKAZONO タウンパレードの母体である、WinC 構想というものを私が代表として運営させていただいているんですが、この WinC 構想では、障害の有無だったり、男女、年齢、そういうのに関わらず自分の個性を生かして最大限発揮してそれを受け入れてくれ

るようなまちづくり、地域づくりをしています。

私の考える、小倉南区の将来像ですが、「地域と行政が一体となった誰もが個性を認め合う多様性に関わられたまち」です。現在、共生社会実現に向けて、国の政策だとか方針だとか示されて、皆さんも結構耳にする機会も増えたと思うのですが、実際に地域共生は何をしたらいいのか、国がどういうことをしているのか、国が掲げているけれども、一方で自分たちにとって現実味の無い話であったりと自分は追っています。

なぜインクルーシブが必要かというところで、実は昨年1年間北欧のデンマークに留学していたのですが、そこで一番印象に残ったポイントがありました。例えば、障害者だからやさしくしなくちゃ、困っているから助けなきゃ、という考え方が一切なくて、向こうはそれぞれ個人として尊重されているので、助けてと声を上げないと実は助けてくれない。どういう経緯でそうなっているかという、デンマークではディスカッションを大事にしていて、私が所属していた学校でも実際にディスカッションの授業がたくさんありました。私の学校は、障害者と健常者が一緒に生活をする学校でしたが、自分はこういうことで困っていると自分の障害のことを知ってもらわないと、ヘルパーである健常者の学生は何もしてくれないわけです。だから困っているということを知ったうえで、健常の学生がじゃあこういう風にしようという、お互いのやり取りで関係性が出来上がってきます。

WinC 構想を進める中で、小倉南区は、WAKAZONO の活動をしていてよくわかるのですが、歴史的な背景から医療や行政福祉と教育などがすごく密集している特別な地域です。そのようなハード面がそろっているので、今度はソフト面、まちづくりではやはりソフト面も大事にしないといけないので、そこを地域の方々が担っていかれたらいいなと思っています。

この活動が6年目ぐらいになります。いろいろと視察をした中で、福祉施設やNPO法人、行政などが主体となってやっているところが主なんです。このWAKAZONOのWinC構想のように地域住民発信でやっているまちづくりは、この規模でやっているのは本当にありません。これを私はすごく誇らしいと感じています。小倉南区でこの6年前に急に始まったこのような活動を柔軟に受け入れて、面白がってくれる、そういう環境が小倉南区にはそろっていて、私はそれをすごいことだと思っています。この10年後を視野に今回皆さんお話ししていますが、この10年後には小倉南区のWAKAZONO 発の地域共生モデル地域として、全国や世界に発信していただけるような地域づくりができたらいなと思っています。

進行（重岡）：

いいねがあがりました。ありがとうございます。地域共生のまちづくり、またモデル地区としてという言葉もありましたが、モデル地区という可能性が何かありそうな気がしますね。

それではもう一巡、パネリストの方々にはいまおっしゃっていただいた小倉の将来像に向けて実現するためにはどうしたらいいのか、というお話をまずは壹岐尾さんからいただいてよろしいですか。

壹岐尾氏：

先ほど少しお話ししましたように、空き家の活用を推進したいなと思っています。建築をしているので、実際はマンションのコーディネーターをしたり、新しい新築のものに取り組んでいますが、それとは逆に、新しいものができる傍らで、空き家がどんどん増えていると思っています。先ほど民泊を平尾台でしていると申し上げましたが、そちらも空き家をこちらで購入し、地

域の空き家を活用する第一弾として民泊をはじめました。なおかつ、隣にも小さな小屋がありましたので、そこをカフェとして活用しています。今日もカフェは営業していますので、この後ぜひ平尾台に行かれてみてください。美味しいカレーが召し上がれます。

進行（重岡）：

いいねが上がっています。カレーを食べられた方が結構いらっしゃるのではないのでしょうか。

尊田区長：

先日、壹岐尾さんのご案内で平尾台を回ってしまして、非常にこじんまりとしたところにあるりますが、空き家問題非常に大変です。先駆的な取組としての特区民泊でもありますし、空港も拡張されますから、外からもたくさんの方が来る可能性があるわけですが、何かもう少し展望はないのでしょうか。

壹岐尾氏：

ございます。コロナのはじまる1年前にオープンしたので、実際にはもうもっと多くの外国人の方に来ていただくという希望があったんですが、それでも今SNSが発展しているので、皆さんが自ら調べて来てくださっています。それが体感としてありました。というわけで、やはり、SNSをどんどん活用して北九州小倉南区にある平尾台を北九州市としてもどんどん押し出して、なおかつ北九州市だけ任せじゃなく、個人で私のように活動してうまく行くか行かないかは別として、始めるというのはすごく思いが大切だと思っていますので、協力して平尾台を推して行きたいと思っています。

尊田区長：

空き家という話と受入れということで行くと、さらに何か出てくるのではないかと思うんですが。

壹岐尾氏：

実は、民泊とカフェがあることで、単純に泊まるだけではなくコミュニティが出来上がっています。外国人の方やお泊りになった方、バイクでいらっしゃった方、その方たちが集まるコミュニケーションの場ができています。そこで、いまもうひとつ、どういった名前かはわかりませんが、小学生から高校生、お年寄りまで、みんなが集まれるようなコミュニティエリアをまた古い建物を活用して、今改修工事を進めているところです。今年にはオープンして皆さんに来ていただきたいなと思っていますので、ぜひよろしくをお願いします。

進行（重岡）：

ありがとうございます。区長からよろしいですか。それでは次に山家さんをお願いします。

山家氏：

私からは、足りない高齢者の住まいは、皆さん方ご自身で作ってもらいたいと思っています。それはシェアハウスなど、これも空き家対策になるかもしれませんが。空き家予防策にもなるのではないかなと思います。お年を取られて家から出なくてはいけなくなった高齢者が、いつま

でもそこに住んでいただくためには、ひとりではどうしようもないです。2人~3人、多くて5人くらいの規模でしょうか。地域のなかで大きめの家をお持ちの方はいらっしゃるかと思いますが、そういうお家を中心にそのそばで困っている方が3人くらい集まり共同で住んでいただければ、配食サービスもできるのではないかと思います。大きな介護施設には大きなキッチンがありますのでそれを使えば可能ではないかと思います。

また、ヘルパーさんなど人手がとにかく足りない状況です。ただ、皆さん方のお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんが不自由になられたときに、皆さんで世話することぐらいはできますでしょう。そのためには、介護のプロがそれを教える必要があるかもしれませんが、あいにく人手が足りない状況です。そういう人手も含めて、地域の方々の力で地域の高齢者がいつまでもそこに住んでいただけるようなお家を一軒でも、二軒でも近くに作っていくこ、それがどんどん広がっていけばと思います。

そのためには様々な課題として、安全面の問題もあります。例えばスプリンクラーなどをつけなくてはいけない。300万くらいかかりますでしょうか。また、やはり中には悪いビジネスでそういうものを悪用しようという方もいるため、行政の方含め、民生委員あるいは福祉協力員の方々、町内会の方々の地域の目の届くところ。行き届くためにはそこで働いていただくのが一番いいのですが、そのようなコミュニティシェアハウスのようなものがあればというのが私の夢です。

進行（重岡）：

ありがとうございます。それでは、小野さんお願いできますでしょうか。

小野氏：

先ほどデンマークの事例でも挙げたように、話すこと、自分のことを伝えること、相手のことを知ること、このような小さいことが大事だと思っています。多少億劫だと思っても、地域のお祭りに参加してみるとか、自治会のやっているイベントに参加してみるとか、少し一歩踏み出すことによって新しい人と出会えたりすると思うので、そういうことを大事にしてほしいなと思っています。

たとえば、区の職員、若手職員と聞くと、真面目そうだなとか賢いんだろうなと勝手に想像をしてしまうと思うのですが、実際に今日このような場に皆さんが来てプレゼンを聞いて、すごい楽しかったなとか、進行がすごい上手だったなど、個別化されていく。また、障害者と大きなくくりで見た時にも、障害者はどんな人なのか、それは実際にそういう人が居る場所に行かないとよくわからないと思います。

もう一度よく考えてみたいのですが、障害者だから優しくしよう、困っているから助けなくては、そういう考え方が本当に暮らしやすいまちづくりの一部になりうるのかと考えると、やはりそうじゃないと思うんです。その前にもうひとステップ、どんな人が居るか知るというのを皆さんにやってもらいたいと思っています。時間も手間もかかるのですが、市の政策や国の政策が流れていく中で、身を任せてゆらゆらと流されていくよりも、自分で考えて自分で見たものを信じてほしいなと思います。

行事などに参加することによって、知らず知らずのうちに、自分もインクルーシブなたくさんの方がいる中の一人の構成員になっている、というところが面白いと思っています。来年の4月第4日曜日に WAKAZONO タウンパレードの第4回目が開催されるので、ぜひ皆さん参加してくだ

さい。そして、今日スターバーストの皆さんも踊ってくださったんですが、スターバーストの皆さんも参加してくださっていて、ありがとうございました。たくさんいろんな人に出会えると思います。来年も頑張るのでぜひ期待してもらえたらなと思います。

進行（重岡）：

ありがとうございます。いいね、がたくさん上がっていました。来年ということで、これも未来です。これが未来に続いていくのかなと思います。

質疑

進行（重岡）：

ここからは、会場の皆さんおひとり1分くらいで、小倉南区をこうしたいというアイデアがあればお話しいただいたり、アンケートにお書きいただいたのをご紹介しながら、皆さんと一緒に小倉南区こうなっていったらいいな、というお話をしていきたいと思います。

まず、先ほどダンスのこともありましたが、南区の魅力と課題について、「障害の有無に関係なく、お互いに協力し合えるのがいいところ」という意見がありました。そして、どんなまちになってほしいかについては、「たくさん笑顔に包まれた笑顔あふれるまちになってほしい」ということで、先ほどの小野さんのお話ともつながるのかなと思います。

それから「祭りやイベントの際は一丸となって熱く盛り上がるところが魅力」というご意見がありましたが、ご意見くださった方ご自分でわかりますか。どうやって周りを巻き込んで行けばいいと思われるか、少しお伺いしたかったんですが、アンケートを書いてくださった方覚えがありますでしょうか。これについて、熱く盛り上がる、周りを巻き込んでいくということについて、会場の方でご意見がある方がいらっしゃいましたら、いいねボードでも構いませんので、上げていただけますでしょうか。

参加者A：

おそらく、北九州の良さとして、祭が大好きな方がたくさんいらっしゃると思うんですが、やはり、商店街や商業施設で働いている皆さんと、そこで暮らしている皆さんが手と手をつないで学校のイベントと組み合わせたり、10代の方のアルバイトとしてやってみたり、インターンシップの中でそういうつながりを増やしていくことで、祭りを盛り上げていく環境整備を、心の環境整備をしていくことが大事なのかなと思いました。

進行（重岡）：

ありがとうございます。短くまとめてくださってありがとうございます。1人1分程度でご意見がある方はいいねボードを上げていただければと思います。

次のアンケートをご紹介したいと思います。こんなまちになってほしいというところで「どんな人も暮らしやすいと思えるまち。特に就職先を充実させる。就職先があれば若い人が南区から出なくてよくなるため」というご意見を書いてくださった方がいらっしゃいます。ありがとうございます。こういった業種に就職したいとか、こういったところがあつたらいいなと思うことがありますか。

参加者 B :

私自身は、公務員や地域を盛り上げられる職業に興味がありますが、例えば大企業などは就職するためには県外に出なくてはいけないため、そういう企業も県内にあれば若者が出なくて済むため、そうしたらいいのではないかと書いて書きました。

尊田区長 :

とても大事なお話だと思っています。北九州市も空港の拡張が決まり、これからどんどん外から人や企業が入ってくる流れができてまいりますので、その流れをしっかり受けて取り組んでいく、その中でそういった若者に選ばれる企業が北九州のどこに魅力を感じていただけるかを一生懸命に発信していきたいと思います。また、働く場所の環境については、周りに買い物ができる、飲食もできて、エンタメもあるというようなところは非常にいいのではないかと思いますので、そういったことも含めてしっかり取り組んでいきたいと思っています。

進行 (重岡) :

ありがとうございます。いただいているアンケートからご紹介したいと思いますが、「多世代交流が多いまち。高齢者は子どもと関わることで元気をもらえて、子どもは新たな知識をもらえる。」これを書いてくださった方はいらっしゃるでしょうか。「また子育てで不安を感じている親たちも悩みを少しでも解消できるのではと考えた」ということで、多世代交流を進めるにはどうしたらいいか、アイデアがあれば言っていたいただきたいのですが。

参加者 C :

小さな子どもでも、高齢者の方でも、コミュニケーションが取れる場所、そういう施設がどこかにできればいいなと思っています。

進行 (重岡) :

ありがとうございます。もう一つありまして、「少子高齢化が進む中で高齢者の方が孤独を感じないまちになってほしいです」というご意見を書いてくださった方はいらっしゃるでしょうか。孤独を感じさせない何か、もしアイデアがあればお聞かせいただきたいんですが。

参加者 D :

私の祖父がもう 25 年くらい一人暮らしをしていて、高齢者の方も今はスマートフォンを持っている人が多いので、具体的に言えば、Instagram や Twitter などでも発信出来たり、地域の方と交流できる場を設けたりしていただけたらいいなと思います。

進行 (重岡) :

ありがとうございます。いいねボードがたくさんあがりました。やはり「場」があることが大事なのだと思います。アンケートからはこれを最後にしたいと思いますが、「放置竹林などの課題を解決することに、年齢を問わず多くの人が取組み交流や地域の問題へ助け合いができる、住みたいと思えるまち」、これを書いてくださった方はいらっしゃるでしょうか。

(会場からの挙手なし)

山家氏：

実は、春吉地区も大変でして、山の保水力が非常に落ちていて、竹林は申し訳ないけれど保水力が弱る一つの原因です。それで何が起きるかという、山崩れ、土砂崩れ、風水害です。施設の中もレッドゾーン、イエローゾーンの介護施設が結構たくさんありまして、本当に山を大事にしないでとんでもないしっぺ返しを食ってしまうため、ぜひそれは人が入っていただければと思います。

進行（重岡）：

ありがとうございます。それでは会場からあとお二人ぐらいご意見をいただきたいと思います。お一人一分ぐらいをお願いします。南区地域を盛り上げるためにはどうしたらいいかという点でご意見いただけますでしょうか。

参加者 E：

今日は若い人がいっぱいびっくりしました。私は、北九州市の健康づくり推進の会、南区の会長をしている、サカネといいます。私どもは月 1 回、高齢者を対象にしてウォーキングをやっています。年 1 回は必ず、非常に狭いですが公共交通機関を使って平尾台に行くようにしています。平尾台に行くには、高齢者は運転が非常に難しいため、運転できる人に相乗りして行くのですが、出来ましたら、北九州市の市営バスをもっと利用すべきだと思います。平尾台が非常にもったいないです。1日に1回でも2回でもいいですし、土日祝は3回とか4回とか、そのような市営バスを南区に導入してほしいと思います。また、私どもの活動拠点は市民センターですので、市民センターに行くにはやはり足が必要です。やはり社会とのつながりが一番大事で、高齢になるにつれてつながりが薄れますので、そのあたりはアクセスを良くしてもらってどんどん市民センターに行って、フレイルもなくなるようにしたいと思っています。

進行（重岡）：

ありがとうございます。いいねボードも上がりました。もうひとつ、小倉南区をこうしたい、というテーマでアイデアがある方いらっしゃいますか。

参加者 F：

皆さん今日はダンスを見ていただきありがとうございました。私が考えている、誰もが気兼ねなく楽しめる地域密着型ダンススタジオ、というのは、例えばこちらにダンススタジオがあって、もう一方にはカフェがあって、ろうあの人々が居てしかもコミュニケーションができて、音楽が流れるのでろうあの人々も振動で楽しむことができる。やはり健常者と障害者の交流がないと理解することができません。私も実際に、障害を持ったお子さんと交流を深めることで障害の有無を知って、障害について子どもも理解することができると、障害を持ったお子さんと健常のお子さんが一緒にコミュニケーションしている空間は、やさしさに包まれているなと感じています。

これからやっていこうと思うのは、小倉南区を中心に全国へ、世界へという形で、インストラクターで手話を使える講師が居ないので、私が育成もやっていって障害と生きづらさをなくして、誰もが楽しめる場所づくりをしたいと思っています。

進行（重岡）：

ありがとうございます。ダンスから広がっていく可能性がありますね。もうひとつ、小倉南区をこうしたい、盛り上げていきたいというアイデアなどお願いします。

参加者 G：

南区の自治総連合会の会長をしております、マツイと申します。今ちょっと思いついたのですが、先ほどスライドの一番下にコクーンさんの平尾台についてありましたが、もう一か所残念に思っているのが曾根干潟です。カブトガニも減っておりますし、曾根干潟が減退しています。今現在、その干潟のそばに 6 号線という道路ができます。また、海浜公園というスポーツ公園ができています。そこに曾根干潟の展望台を作る計画もあります。先ほどスライドにありました、宗像のような道の駅を作って、平尾台と曾根干潟を表に出す。曾根干潟をもっとよくすれば南区も盛り上がるのではないかと思います。道の駅があれば平尾台の特産物も持ってくることができますし、できましたらこの構想を、私も元気なうちは協力しますので進めていただければと思います。

進行（重岡）：

ありがとうございます。後ほど壹岐尾さんともお話しただけたらと思います。

まだまだたくさんご意見をお伺いしたいところですが、そろそろお時間となりますので、ここで尊田区長から皆さんに今日のまとめということで振り返ってお願いします。

尊田区長：

本日は多数の方にお集まりいただきましてありがとうございます。そして、パネリストの皆さんからもお話しいただき、会場からも多数お話しいただきました。南区にかける想い、熱というか気持ちを前ですっかりと受け止めさせていただく機会となりました、ありがとうございます。

冒頭色々とお話しさせていただきましたが、見ている景色は同じなのかなと思いました。その中で、パネリストの中から出ました、空き家の問題、超高齢化の問題に向けて、それから障害のある方健全者誰もががという視点、どれ一つ欠かすことができない話でございます。これらをしっかりと前に進めていくことで、小倉南区の新しい姿が出てくるのではないかと思います。

空き家を活用したいいわゆる地域振興のヒントもでてきましたし、私はホテルとかもあるのでないかと思いましたが、二地域居住など可能性としてあるのではないかと。それと空き家を活用して住み続けるということは、行政と地域と住んでいる方の協力がいるという視点をいただきました。また共生のまちということで、コミュニティづくりなど、重要なポイントがありました。しっかりと受け止めて検討して参りたいと思います。また、SNS の交流発信、孤独防止については、まさしく新しい地域コミュニティを作っていくための本用にヒントになると受け止めております。そういったことをしっかりと受け止めて、先ほど 3 つの目標を掲げていたましたが、それぞれ皆さんの心の中に出てくる南区の将来像がある程度見えてきたのではないかと思いますので、引き続き一緒に南区の未来に向けてご協力いただければと思います。本日はどうもありがとうございました。

パネリストによる「〇〇なまち」発表

進行（重岡）：

ありがとうございます。最後にパネリストの皆さんにいま全体をお聞きになってイメージが膨らんだのではと思いますが、将来の南区は〇〇なまちというフレーズや将来像を短めに一言ずついただけますか。壹岐尾さんからお願いします。

壹岐尾氏：

実は私はこちらのデザインもさせていただけてまして、デザインの力、自分の専門職を生かして地域に貢献したいと思っています。デザインはやはりおしゃれでカッコいいですね。というわけで、「持続可能かつおしゃれかつカッコいい小倉南区」を目指していきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

進行（重岡）：

ありがとうございました。山家さんお願いします。

山家氏：

わたくしも介護施設の運営者の端くれでございますが、「介護施設の要らないまちづくり」です。でもきっとそれは必要なのですが、大多数の方は自分で自分の住まいを、お友達でもなんでもいいですから、ご近所で探していただけるようなまちづくりをぜひお願いたいと思います。よろしくお願いいたします。

進行（重岡）：

ありがとうございます。小野さんお願いします。

小野氏：

私は先ほど申し上げた通り、大分県中津の出身なので、若園や小倉南区にゆかりはないのですが、やはり住民の方の熱量が本当に大きく、私はそれが本当に大好きで6年間頑張ってきたなという感じです。今年から高校生の皆さんにもWAKAZONOタウンパレードに関わってもらっているため、そういった輪がどんどん広がっていろんな人が交流できる場ができたらいいなと思っています。WinC構想の報告書で分かりやすくまとめた冊子を作っているため、気になる方は受付で受け取ってください。ありがとうございました。

進行（重岡）：

よかったらお受け取りください。それでは最後に、武内和久市長より、本日を振り返って、一言申し上げます。

武内市長：

皆さん本当にありがとうございました。このミライ・トークは、いろんな区の若手職員の工夫によって特色があるのですが、今日も非常に特色ある企画になって本当に良かったと思います。

色々なお話を伺って、今日は第一回で南区はもう一回ありますが、人と自然の共生、健康な方と障害のある方の共生、あるいは多世代の共生ということで、いろんな意味で「共生する」こと

への意識、メッセージが共通しているという印象受けました。また、関わり合いをどうやって持つのか、人と人の関わり合いを持つことへのベクトルも非常に強いと感じました。その関わり合いを実現するために、先ほどあった足の問題、そして場の問題、これらをどうやって作っていくのかも一つ課題としてみえてきました。

今日はどちらかという、地域の話が多かったですが、やはり南区の誇るべき一つの姿として、そうしたソーシャルキャピタルと言いますが、地域の中での人と人のつながり合いや人と人とか一緒に組んでやろうということに対して、割と垣根が低いというところも大きな魅力だと思います。そのあたりをさらに磨いていくことも大事なのかなという気付きのある時間をいただきました。

本日は皆さんお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございました。引き続き考えていきましょう。

進行（重岡）：

ありがとうございました。以上をもちまして、ミライ・トーク in 小倉南第1弾のプログラムを終了させていただきます。多くの皆さんにご協力をいただき本当にありがとうございました。

以上